

**タチフウロ（フウロソウ科）**

## 観察のポイント

「立ち」フウロとのことですが、ほっそりした体を隣の草にそっと寄りかけているほうが多いようです。昔は川崎でも咲いていたようですが、今では見かけることがなくなった花のひとつです。山の草原や林のまわりで見られます。種は、はじけて遠くへ飛ぶようなしくみになっています。はじけた後の形がオミコシの屋根の形に似ていませんか？

**コバギボシ（ユリ科）**

## 観察のポイント

つぼみの形が橋の手すりにつく「擬宝珠(ぎぼし)」に似ているところから名がつけました。八ヶ岳にある、オオバギボウシとのちがいは、花の内側に濃い紫色の脈が目立つこと、葉の付け根がふくらまず、へら形に下のほうに流れる形になることなどです。もちろん花や葉の大きさもオオバギボウシよりも小さく花も少し遅くに咲きます。

**オミナエシ（オミナエシ科）**

## 観察のポイント

日本の秋を代表する花ですが、野原ではなかなか見られなくなってしまいました。八ヶ岳では草原が少なくなってしまう、植林されたカラマツ林ばかりが多くなってしまった結果、オミナエシやキキョウのような日当たりの良い所に生える植物は少なくなってしまうました。

**ワレモコウ（バラ科）**

## 観察のポイント

とても地味な花で花が咲いても咲いているようには全く見えません。種になっても同じ色をしているので分かりにくいです。小さな花がびっしり集まっています。一つ一つの花がどんなか見てみましょう。

**シラヤマギク（キク科）**

## 観察のポイント

山の草原に一足早く、秋をつける、少しさびしげな花です。ひょろりと背が高く、1～1.5メートルになります。葉の下の方につく、心臓のような形の葉が目印です。長い柄にはヒレがあります。

**キキョウ（キキョウ科）**

## 観察のポイント

いくつかの花の中心を観察してみましょう。花によってめしべやおしべの形が違うことに気づきます。おしべが花粉を出す時期と、めしべが花粉を受け取る時期をずらすことによって、自分の花粉で受粉しないよう工夫をしているのです。ハナバチが花粉を運びます。

**フシグロセンノウ（ナデシコ科）**

## 観察のポイント

名の由来になった茎を良く見てみましょう。節が黒ずんでいます。暗い森の中でこの花が咲いていると、そこだけパッと明るくなったような感じがします。まるで園芸植物のような華やかな色ですが、れっきとした日本在来の植物です。

**マツムシソウ（マツムシソウ科）**

## 観察のポイント

花を何個も見てみましょう、咲きはじめてから種までさまざまな段階で、どれもおもしろい形をしています。外側の花と、中心の花とでは花びらの形がちがいます。種は丸い形をしていて、巡礼の人が使う鐘の「松虫」に形が似ているので名が付いたといわれています。



シラヤマギク

シラヤマギク (キク科)



タチフウロ

タチフウロ (フウロソウ科)



キキョウ

キキョウ (キキョウ科)



コバギボウシ

コバギボシ (ユリ科)



フングロセンノウ

フングロセンノウ (ナデシコ科)



オミナエシ

オミナエシ (オミナエシ科)



マツムシソウ

マツムシソウ (マツムシソウ科)



ワレモコウ

ワレモコウ (バラ科)